

「岐阜農林高校に入学して」

1年生物工学科 Kさん

私は岐阜農林高校に入学して、部活と実習が楽しくて面白いと感じました。

部活では、初めての水球で複雑なルールを理解することや巻き足をして浮くことが難しいと感じました。しかし、先輩方や先生方の優しく分かりやすい指導のおかげで巻き足の時の右足は反時計回り、左足は時計回りに回すという分かりやすい説明をしてくださったことにより、多少浮くことが出来るようになりました。ルールについては、試合をやってみることで段々と理解をすることが出来ました。初めて遠征に行った時は不安がありましたが、先輩方が私のできるようになったことや改善点を説明、アドバイスしてくださったので不安が無くなり、もっといろいろな試合に出てみたいとなりました。

実習では、見たことのある器具や初めて見る器具が多くあり、自分にも扱えるのだろうかという不安と、扱えられるようになったらカッコいいだろうなという二つの思いがありました。しかし、いざやってみると使い方は難しいけれど楽しく使うことが出来ました。分からないことがあっても解決策を先生方が教えてくださったことで、より理解を深めることが出来ました。



「岐阜農林高校に入学して」

2年生物工学科 Jさん

私が入学してから印象に残っているのは、植物バイオテクノロジーの実習で行ったセントポーリアの葉挿し培養です。多くの人からすれば、ただの基本操作を学ぶための初歩的な実験にすぎないかもしれませんが、私にとっては自分の成長を感じられた忘れられない実験です。



葉挿しするセントポーリアの葉

私は中学生の頃、岐阜農林高校のキャリアチャレンジ Day に参加しました。その日、生物工学科の体験で行ったのがセントポーリアの葉挿し培養です。初めての無菌室にドキドキしながら時間をかけて行ったのを覚えています。ただ寒天に葉を挿しただけでほんとに成長するのか、まだ何も知らない私は疑っていましたが、しばらく経つと、もっさりとした葉っぱが出てきて、とても驚き、同時に疑問に思いました。しかし4月から岐阜農林に入学し、授業で分化全能性について学び、あの時の疑問を解き明かすことができました。さらに、他の専門教科でも日常の中に数多く存在する「なんで？」という疑問の答えについて学べ、授業がとても楽しく感じました。そして知識がついていくうちに実習も行えるようになり、三回目の実習で初めての培地作りを行い、その次に組織培養を行いました。驚いたことにある程度の知識がついた前と後では、自信やわくわく感も全然違いました。もちろん速くできても、菌が入らないように工夫をしなければコンタミネーションしてしまいます。このときのセントポーリアは案の定、コンタミネーションしていました。しかしこの失敗からの悔しさをばねに、先生にたくさん質問したり、ノートに自分の反省点を書いて何度も見返したりしました。その結果、二回目に行った組織培養のセントポーリアは5つの内、一つもコンタミネーションしていませんでした。私はこの時、嬉しくて嬉しくて仕方がありませんでした。自分の成長を実感することができたからです。自分に新たについた知識と技術をちゃんと活かされたことは、自信にもつながりました。

二年生になり総合実習では難しい実験も入ってきましたが、何度失敗しても初心を忘れずに工夫を繰り返せば、きっと自分が求める結果を出せると考えています。今年は農業高校生海外実習派遣事業も控えています。困難なことも試行錯誤を繰り返して乗り越えていきたいと思います。



セントポーリア

「この1年間」

1年生物工学科 Iさん

【第一幕 岐阜農林高校入学】

家から徒歩3分、マジで勝ち組だと正直思いました。中学の時から、ほぼ毎日遅刻するからこそ家から近い農林を選んだ。そして、生物工学科という学科があることを知った。生物・化学などの、理系のことを学ぶことが好きな私にとってとっても条件に良い高校だった。

そして、決意し第1候補である生物工学科に受かった。

【第二幕 生物工学科】

生物工学科で、私にとって一番楽しいと思えたのは実習の時間だ。1.2.3階とあってそれぞれ違った魅力がある。

その中でも一番好きなのは、1階の実験室だ。無菌室という、特別感のある部屋。はじめ、エアシャワーを浴びた時に「すごい!」と感動したのを今でも覚えている。無菌操作も、コンタミしないか緊張感がある中で行っていた。達成感が半端なくて好きで、楽しい。



【第三幕 部活動】

高校に入ったは良いものの、どうせなら部活動に何か入ろうと思った。部活動の見学をした中で魅力を感じたのが「演劇部」。忙しいけど楽しい。仲間みんなで公演をやり遂げた時の達成感があり、「入部して良かった、これからも頑張るぞ」と思っている。



「インターハイ出場を目指して」

1年生物工学科 Hさん

「生物の勉強がしたい!」「実績のあるコーチのもとで陸上をやりたい!」そんなことを思いながら、僕は岐阜農林高校入学した。入学したての頃は、すべてが新鮮だった。新しい友達、新しい教室、新しい教科。今から思えば、あの頃の自分は、高校生活をなめていたと思う。

あっという間に時が過ぎ、高校生活にも慣れてきた頃、僕は、部活動の大変さに気が付いた。週5回の地獄のような練習、時にはきつすぎて嘔吐することだってあった。家から学校まで12km以上の距離を自転車で通学しその後の朝練もあり、1年間通うのも一苦勞だった。

そうこうするうちに、大会シーズンがはじまった。僕は、一つ年上のライバルに0.05秒差で負け、県大会は2位で終わった。言葉に表しきれないくらい悔しかった。それからはこれまで以上に一本、一本を大切にし、走りを見直し、練習を積んだ。記録はどんどん伸びていった。シーズンの終わりも近づいてきたころ、標準記録を破りU18の全国大会に出場することができた。残念な結果だったが、1年生のうちから出場することができ、全国大会のスピード感、レベルの高さを感じることができた。2年生では、この経験を生かして「インターハイ出場」「U18入賞」を目標に頑張っていく。陸上競技場は、本当に苦しいし、辛い。しかしこれを乗り越えゴールをしたとき、ライバルに勝てたときの達成感や嬉しさは言葉では表すことができないほど。2年生で少しでも良い結果がでるように、これからも頑張っていく。



「一年間を振り返って」

1年生物工学科 Tさん

私はこの1年間とても楽しく、この高校に入って良かったなと思いました。そう思った理由を説明します。

最初は農業について全く知らずに岐阜農林高校に入りました。

農業と環境の大豆の実習をしていろいろなことについて知ることができました。私は正直農業が簡単だと思っていました。でも大豆を植えて少し放置すると雑草は生い茂っていました。除草のときは夏だったのでとても暑かったです。大豆を収穫する時もお店で販売しているものより遥かに大豆が小さく農業はとても大変だと感じました。



もう一つは農業鑑定競技です。品種や肥料、農機具について学びました。農業鑑定競技は、専門知識が多くとても苦戦しました。でも自分の知っていることもあったので知っていることと関連付けると覚えやすく、少しだけやる気が出てきました。そして納得のいく点数がとれたと思います。自分は最初農業について全く知らずに入ったけど、今は農業について少しだけ知ることが出来たのでこの高校に入って良かったと思いました。



「一年間の学びから」

1年生物工学科 Rさん

僕がこの一年を過ごした中で、最も印象に残っていることは毎週水曜日に行った総合実習です。総合実習では、微生物バイオ、食品化学、植物バイオの3部門について学びました。

微生物バイオでは、酵母の発酵試験と固定化や細菌数測定などを行い、微生物の働きや日常生活との関わりについて深く知ることができました。また、今まで触れたことがなかった光学顕微鏡を使用したり、いろいろな種類の微生物の観察をする中で、微生物について学んでいるという実感も湧きました。



食品化学では、ビュレットを扱った滴定を様々な薬品、溶液を用いて。最初は中々発で成功できなかった滴定が回数を重ねるうち、簡単に工程を終わらせられるようになったため、自分の技量が上がったことを実感しました。いつも口にしているような調味料でも、多くの化学反応を起こすことができることを学び、化学反応の身近さを学べました。



植物バイオでは、MS培地の調整とセントポーリアの葉差し培養を主に行い、無菌操作の基礎基本を習得することができました。初回には工程のどこかでつまづくこともあったものの、そのつまづきを反省点として次回に生かすことで、2回目にはより正確に取り組むことができました。まだ何も知らない中学生の頃、キャリアチャレンジDayにおいて行ったときは先輩にずっとついてもらいながらだったため、自力で行えるようになった今では、あの頃よりも成長したことを強く感じます。



僕は、中学生の頃は将来の夢などは一切なく、どこの高校に進学したいかも全く決まっていませんでした。しかし、キャリアチャレンジDayにおいて生物工学科の葉差し培養に触れてみたことで、「やりたいことを見つける」という想いを込めて、この岐阜農林高校に進学しようと決めました。今でも将来の夢は決まっていません。ですが、この生物工学科で、今の仲間たちと学びを深め、自分から多くのことを取り組み、日々の学習や実習を大切にして、やりたいことを見つけられる2年間にしていきたいです。そのためにも、1年生で得られた知識、興味を大切にして、未来に繋げていきます。

合格体験記③

鹿児島大学農学部農学科 Oさん

私は入学する前から大学への進学を決めていました。学校推薦型入試の際は三年間の評定平均が影響するので、後で後悔しないように定期テストを頑張りました。しかし、私は体育や美術系教科が苦手なので単純な評定値では勝てないと考えました。そんな時、資格や大会などの実績があると少しは有利になると聞いたので1年生の時から資格取得や農業鑑定競技、農業クラブ執行委員などに取り組みました。2年生が終わりに近づくにつれて進路の話が増え、大学について調べる時間があつたときは何となく岐阜大学への進学を考えていました。しかし、三年生になって岐阜大学を目指す人が非常に多いことが分かり、それをきっかけに他の大学についても調べるようになりました。そんな時に同じゼミの先輩が進学した鹿児島大学を見つけてよく調べてみると、課題研究でやっていることをより深められることが分かり、その他の魅力もたくさん出てきました。そこから鹿児島大学を目指すようになりました。目標が決まるとやる気が出てきて、今何をすればいいのかを考え、計画を立てることにしました。鹿児島大学の試験内容は面接と小論文だったので、面接で聞かれる課題研究は特に意欲的に取り組んで研究内容をしっかり頭に入れました。また、小論文は小論文講座に参加して課題は積極的に取り組みました。計画的に取り組んだおかげで受験と農業鑑定競技の両立ができ、農業鑑定競技では全国大会で最優秀賞を取ることができました。受験では面接や小論文の練習で思っている通りに書いたり話したりすることができ、自信をもって受験して合格することができました。

進路を実現するために必要なことは自分を分析して自分は何が得意なのか、進路実現には何が必要なのかを考えて計画的に活動することだと思います。人によって志望先も違い、小論文や基礎科目の実力も得意不得意も違います。周りと同じようにするだけではなく、自分がやるべきだと思うことを早いうちからやってみると良いと思います。

合格体験記②

静岡大学農学部生物資源科学科 Nさん

私が希望の進路実現に向けて最も心がけてきたのは日々の勉強です。

本校では、推薦入試を使って進学する人が多いですが、評定値が重要なので、中間考査や期末考査などの定期考査でより高い点数を取ることが必要だと考え、考査一週間前から勉強を始めるのではなく、常日頃からコツコツと勉強しておくことが大切だと自分に言い聞かせ、『授業で学んだことをその日のうちに振り返り復習をする』『より難しい応用問題に挑戦してみる』など積極的に取り組んできました。

三年生へ進級してからは、日々の学習に加えて小論文対策に取り組みました。手順としては、まず自分たちで小論文の答えについて考え、結論を出す。その後、結論を発表し、発表した結論がどうだったか、先生に採点をしてもらうという流れです。最初は小論文そのものに慣れておらず、問題に解答することすら十分できませんでした。が、何度も対策を続けるうちに、小論文の書き方というものが理解できるようになっていき、だんだんと解答することができるようになりました。

また放課後に行われる補習にも参加して、通常の理科の授業だけでは学習できない内容について、教えて頂くことができました。夏休みに入ってからには特に大学の受験に必要な生物や化学の勉強を行うようになりました。特に静岡大学農学部2回生の先輩から紹介して頂いた参考書も利用し、一層力を入れ受験対策に力を入れました。

静岡大学のオープンキャンパスではオープンラボといって研究室が高校生に解放されて先生方にお話を伺うことができる機会がありました。『自分が大学へ進学したら何をしたいのか』『どのような研究に携わりたいのか』などのビジョンを明確にするために、興味のある研究室のゼミを訪ねることで、面接で何を話すべきかについて深く考えることができました。

最後に、静岡大学を総合型選抜入試の受験を考えている後輩たちへのメッセージとしては、『自分の希望する進路に進むためには、どんなことにも積極的に取り組むことで道は開けてくる』ということです。

合格体験記①

岐阜医療科学大学保健科学部臨床検査学科 Mさん

「受験で学んだこと」

私が受験で学んだことは3つあります。

1つ目は固い意志を持つことです。大学で学ぶのは自分自身であるため、進路は自分で決めることが大切だと考えます。親との意見の対立もあるかもしれませんが、自分の意見をしっかり伝えることが必要です。今、何をしたいのか、この先どうになりたいのかを想像し、固い意志を持つことはモチベーションになります。勉強をするうえでプレッシャーに勝つためにもモチベーションはとても大切になります。

2つ目は期限を守ることです。大学側に送る書類には厳格な期限が決められています。これを超えてしまうと受け付けてもらえないので、必ず守る必要があります。期限を守れるかはすべて自己責任なので、他人に任せるのではなく自分で管理することが重要です。募集要項やホームページを何度も確認したり、メモをしたりして工夫すると良いと思います。進路が決定した後も、手続きのために大学側に書類を郵送することもあります。受験が終わったからと言って油断しないことが重要です。普段から提出物を期日にしっかり出すなど、期限を守ることが意識する大切さを改めて実感しました。

3つ目は、全力で取り組むことです。大学側に送られる成績は3年生のものだけではありません。受験だから今だけ頑張るのではなく、受験を見据えて早めに対策をすることがよいと思います。常に勉強を頑張り、テストや授業もしっかり受ける姿勢が必要です。

このように、受験から多くのことを学ぶことができました。受験は大変だったけれど、良い機会だったと思います。受験は自己責任であるので自分で管理する力を身に着けることができました。そして何よりも体調管理は重要だと感じました。これからも体調に気を付けてより多くのことを学びたいです。